

Marcel Mauss

森山工 著 『「贈与論」の思想——マルセル・モースと〈混ざりあい〉の倫理』

公開合評会

報告1：山田広昭／東京大学名誉教授

報告2：藤岡俊博／東京大学准教授

報告3：片岡大右／批評家

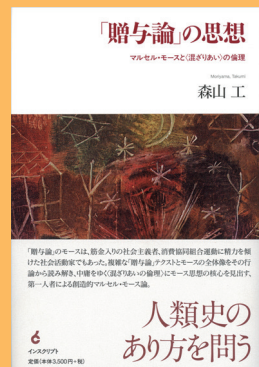
応答：森山工／東京大学教授

司会：伊達聖伸／東京大学教授

人類学・民族学の重要文献「贈与論」（1923-24年）を著したマルセル・モース（1872-1950年）はまた、同時代社会の変革を志した非マルクス主義の社会主義活動家でもあって、しかもこれら両面は分かちがたく結びついていた。その再評価の動きは今世紀になって国外にも広がり、彼自身が与したわけではないアナキズムとの類縁性の示唆を含め（デヴィッド・グレーバー、山田広昭）、創造的な読み直しが進んでいる。

森山工『「贈与論」の思想——マルセル・モースと〈混ざりあい〉の倫理』（インスクリプト、2022年11月）は、近年の日本におけるモース像の刷新を主導してきた著者の新刊である。一方では執筆の背景をなすフランス内外の政治的・社会的環境との関係の精査を通し、他方ではラトゥール、デスコラ、シモンドンらの理論的地平を踏まえた鮮やかなテキスト読解を通し、「贈与論」の核心をなす「〈混ざりあい〉の倫理」を浮き上がらせるこの決定的な一冊をめぐって、公開合評会を開催する。

本合評会は、モースのように「現存社会主義」の先鋭な批判を前景化させなかったとはいえ多様な社会主義像に目を向け、日本的近代をめぐり「雑種文化」の問題系を提起した評論家・加藤周一の遺産継承の課題を背景のひとつとすることで、100年前に西欧で書かれた類例のない著作のアイデアを今日の東アジアにおいて受け継ぎ発展させる試みでもある。



EAA | 東京大学東アジア藝文書院
EAST ASIAN ACADEMY FOR NEW LIBERAL ARTS, UTAKYO

【主催】
東京大学東アジア藝文書院（EAA）
東京大学教養学部フランス語・イタリア語部会
加藤周一おしゃべりの会／羊の談話室（仮称）
【協力】インスクリプト

【日時】2023.2.11 〈土〉14:00-17:00

【場所】東京大学駒場キャンパス 101号館 11号室（EAA セミナールーム）
および Zoom

対面参加はこちら（<https://bit.ly/3iWOIEM>）から、
オンライン参加はこちら（<https://bit.ly/3ZNIINT>）またはQRコード
から事前にご登録ください。

